

製品名: Cdk2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08557**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	32kDa

抗原情報

遺伝子名	CDK2
別名	CDK2; CDKN2; Cyclin-dependent kinase 2; Cell division protein kinase 2; p33 protein kinase
遺伝子 ID	1017.0
SwissProt ID	P24941
免疫原	抗血清はヒト CDK2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 231-280

背景

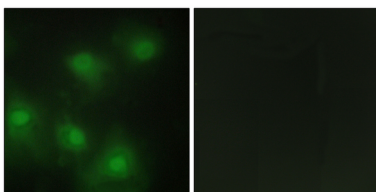
サイクリン依存性キナーゼ 2 (CDK2) ホモサピエンス この遺伝子は、細胞周期制御に関与するセリン / スレオニンプロテインキナーゼファミリーの一員をコードしています。コードされているタンパク質は、細胞周期の進行を制御するサイクリン依存性プロテイン

キナーゼ複合体の触媒サブユニットです。このタンパク質の活性は、G1期からS期への移行期において特に重要です。このタンパク質は、サイクリンAまたはE、CDK阻害剤 p21Cip1 (CDKN1A)、p27Kip1 (CDKN1B) など、複合体の他のサブユニットと会合し、制御を受けます。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2014年3月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、酵素調節: Thr-14 または Tyr-15 のリン酸化は酵素を不活性化し、Thr-160 のリン酸化は酵素を活性化します。、機能: 細胞周期の制御に関与します。サイクリン A、B1、B3、D、または E と相互作用します。CDK2 の活性は S 期および G2 期に最大になります。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。CDC2/CDKX サブファミリー。、類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、サブユニット: CABLES1、CCNA1、および CCNE1 との複合体として存在します。CABLES1 と相互作用します (類似性による)。UHRF2 と相互作用する。UHRF2、CDK2、CCNE1 からなる複合体の一部である。Speedy/Ringo タンパク質である SPDYA および SPDYC と相互作用する。SPDYA と CDKN1B/KIP1 の両方との複合体に存在する。

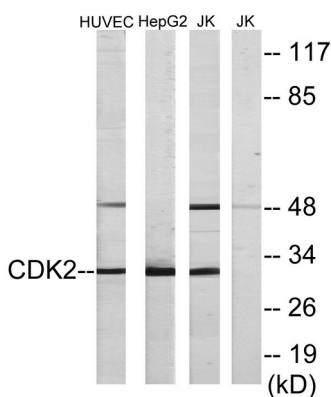
研究分野

Cell_Cycle_G1S;Cell_Cycle_G2M_DNA;卵母細胞減数分裂;p53;プロゲステロン媒介卵母細胞成熟;がんにおける経路;前立腺がん;小細胞肺がん;

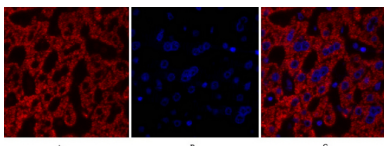
画像データ



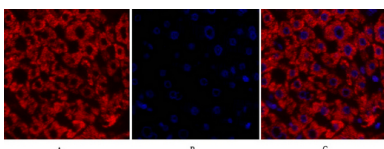
CDK2 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



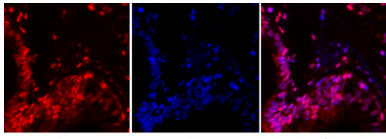
CDK2 抗体を用いた HUVEC、HepG2、Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



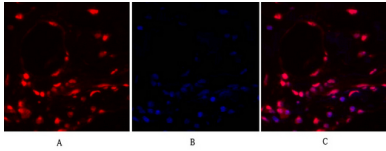
ヒト肝組織の免疫蛍光染色。1, Cdk2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



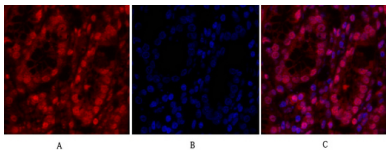
ヒト肝組織の免疫蛍光染色。1, Cdk2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



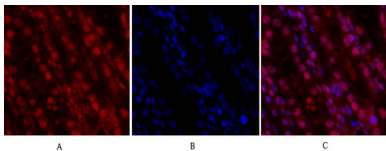
ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, Cdk2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



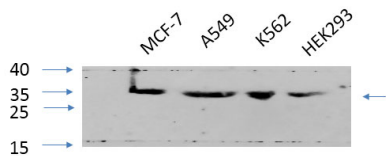
ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, Cdk2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, Cdk2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, Cdk2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



Cdk2 ウサギポリクローナル抗体 (1:1000 希釈、4°C、一晚) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体: ヤギ抗ウサギ IgG IRDye 800 (1:5000 希釈、25°C、1 時間)。